

INFO ①

安心して働ける環境づくりへの一歩

社会福祉法人ゆうゆうでは、誰もが安心して働き、利用できる環境づくりを進めるため、2025年10月より「すべての人が尊重される環境づくりのための指針」を策定しました。性的指向や性自認にかかわらず、一人ひとりを大切にする姿勢を明確にしたものです。あわせて、職員の子育てを支える「子育て支援助成制度」も新たに整備しました。ファミリーサポートや一時預かりなどの利用を支援する制度です。これからも、働きやすく安心できる環境づくりに取り組んでまいります。



INFO ②

Pâtisserie Ruelle

Happy Valentine's day!

もうすぐバレンタインですね。

今年もRuelleではこの時期限定のチョコレートを使用したケーキを販売いたします。新商品ではチョコレートにナッツを混ぜ合わせたジャンドゥーヤを使用したテリーヌ、ロールケーキなどを販売予定です。

定番のショートケーキ等の商品もチョコショートケーキ等に変わります。

普段よりチョコレートを使った商品がたくさん並びますのでこの機会に是非ご賞味ください。

また焼き菓子ギフトもバレンタイン仕様になり店内も華やかになります。

プレゼントにいかがでしょうか。

皆様のご来店お待ちしております。

Pâtisserie Ruelle

〒069-0852 北海道江別市大麻東町13-35

011-376-0644

定休日：月曜・日曜



Donation 寄付について

ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

◎社会福祉法人への寄付について

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。

超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切にする福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

1 個人の場合 2 法人の場合 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896
https://yu-yu.or.jp/contact/



YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



ゆうゆうの今を伝える広報紙



ゆうゆう塾 雪遊び風景 撮影：辻菜みゆき

YOU YOU MAGAZINE 2026/2 AUTUMN-WINTER

デザイン／株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行／社会福祉法人ゆうゆう 広報 tel:0133-22-2896 mail:info@yu-yu.or.jp



2026/2 AUTUMN-WINTER



北海道障がい者のアート展／ゴーオンステージ

ゆうゆうが運営する「福祉とアーツ北海道」でこの冬開催された2つのイベントの様子をご紹介致します。

北海道障がい者のアート展

北海道で創作活動を行う障がいがある人を対象とした公募展で、昨年12月11日(木)～16日(火)の5日間、札幌市民ギャラリーを会場に開催され、道内全域より応募された230点の作品が展示されました。会期中には、「つながるフォーラム2025」を開催し、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長 久保田翠さん、アーティストの深澤孝史さんをゲストに迎え講演を行ったほか、「作品みてみてタイム」「ギャラリーツアー」など、出展者、来場者の交流を深める機会となりました。また、「やさしい著作権講座」「商品開発ワークショップ」「体験新喜劇」の3つの講座も会場内で実施し、アート展を軸につながり合い学び合う5日間となりました。

ゴーオンステージVol.2

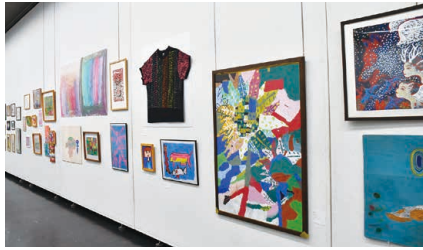
この発表会は、北海道で音楽やダンス、演劇などのステージ活動を行う障がいのある方を対象に公募し全11組の参加で、今年1月12日(月・祝)に札幌市教育文化会館小ホールを会場に行われました。今回はさらに、北海道・北東北エリアで開催しているアール・ブリュットショウケースより、ゴーオンステージに岩手県からゲストとして「きびだんごの会(佐藤照美、小野寺廣子)」をお招きしました。魅惑の旋律、笑顔あふれるダンスや演劇、気迫の太鼓など、みんなの豊かな表現が満席のホールいっぱいに届けられました。

「福祉とアーツ北海道」は、今後も障がい者の芸術文化活動を応援し、様々な情報をお知らせ致します。

<https://fukushitoarts.com/>



福祉と
アーツ
北海道



秋の苦小牧ツアー

ヘルパーステーションajisaiでは苦小牧ツアーと称して、東開文化交流サロンにいる高橋健さん(※以下、健先生)に会いに行きました。健先生は、利用者さんが小学生の時に支援学級で担任をしていた先生で、今は当法人の職員として働いています。

ツアーのきっかけは、ある利用者さんの好きなことを増やせたらと考えていたとき、幼い頃を知る職員から「今の余暇の過ごし方は、当時健先生と一緒にいる中で見つけてくれた」と教えてもらい、当時の様子や実践を知りたいと思ったことでした。

東開文化交流サロンではアルバムやDVDを見ながら支援学級での日々をお話いただき、併設カフェで一緒に昼食をとるなど、楽しいひとときを過ごしました。健先生は、文字の書き方を教えていた頃を思い出し、利用者さんからの手紙を受け取って感動されていました。ご家族からのお礼の手紙もあり、皆にとって心に残るツアーとなりました。



地域と共に

当別事業部では、季節に合わせて自然を感じられる行事を地域の方々と開催しています。

10月上旬、第6回目となる「森と暮らす」イベントを野布瀬の森で開催しました。当日の火起こしや棒巻きパンづくりなどを地域の方々を中心に準備を進め、火を囲みながら参加者それぞれの立場や役割を越えて、共に楽しむ風景が見られました。

12月中旬、べこべこのはたけで「クリスマス会」を開催しました。スタッフ含めて65名の参加者がリース作りやケーキの飾りつけと一緒に行いました。会の最後にはみんなでクリスマスソングを歌い、サンタさんからのプレゼントももらい、地域の方々と共に季節を味わう特別な時間となりました。

12月下旬、amaririsuでは「おせちをつくろう」イベントを開催しました。今回は「森と暮らす」、「クリスマス会」でも準備、サポートに携わってくださった地域の方々をお招きし、かまぼこの飾り切り、伊達巻き、和寒町のかぼちゃを使用したきんとん作りにチャレンジする子どもたちのサポートをさせていただきました。子どもたちは地域の方との関わりに「少し緊張した」と話しながらも、地域の方との活動を通して成長していく姿が見られました。



利用者さんと一日を大切に

和寒事業部では、季節の移ろいと共にその時期ならではの取り組みを行っています。

芳生苑では、利用者さんのご家族含め総勢120名のクリスマスお食事をを行いました。芳生苑で働いていた先輩方にもボランティアで参加いただき、にぎやかな会となりました。利用者の皆さんはご家族とゆっくり過ごされたり、おいしい食事に舌鼓を打たれたり、楽しく晴れやかな時間を過ごされました。欲張りかもしれませんが、平日もクリスマス会を実施し、地域おこし協力隊が運営する「きらっと」に来ている子どもたちがサンタ役で登場。踊りやクイズを披露し、一緒に踊る方や、感激して涙する利用者さんもおりました。「楽しかった。また行きたい」と言ってくれたお子さんもおり、お互いに心が動く機会となりました。

健楽苑では、デイの魅力化プロジェクトを進めています。大切にしているのは「利用者の声を聞く」こと。ある方の「町民文化祭に行きたい」を叶えるためにデイの行事として他の方にも声をかけると「私も行きたい」と総勢7名で参加しました。「久しぶりに参加できた、嬉しい」と楽しまれていました。その他にも「サポテン育成プロジェクト」「麻雀プロジェクト」と一人ひとりの声を形にしています。

利用者の皆さんとのかけがえのない一日を大切にすべく、職員一同、これからも力をあわせていきます。

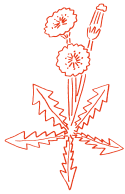


10月に和寒町ふくしワークキャンプを開催しました

和寒町や地域活動に興味を持つ学生など、小学生から大学生まで幅広い学生が参加しました。

地域の方と一緒に和寒町産の観賞用かぼちゃを使用しハロウィンランタンづくり、まち歩きビンゴ、特別養護老人ホームの利用者さんとのレクの企画運営などのプログラムを実施しました。学生からは「まち歩きビンゴをして、自分のまちにはないものが沢山あって面白かった」「福祉に対して少しマイナスなイメージを持っていたが、この2日間でさまざまな方と関わり、今ではとても前向きな印象を持つようになった」「和寒町のたくさんの魅力を見つけることができ、福祉について理解を深めることができた」と感想もあり、地域で学びを深める機会となりました。

今後も福祉を軸に学生が自ら学び行動していくことができるプログラムを実施し、学生や若者と地域とのつながりの場の提供をしていきます。



東開サロンを明るく温かくしてくれるボランティアさん

東開サロンには、イベントや子どもだいのいばしょのボランティアとして一緒に活動してくださる方々がいます。ボランティアさんの活躍によって、イベントでは子育て中の方が安心、集中して楽しむことが出来たり、子どもだいの3の居場所では子どもたちの経験の幅が広がったりしています。反対に、ボランティアさんには「お子さんと一緒にいると癒される、元気をもらえる!」と人と関わる心地よさを感じていただいています。

開館から早3年、こうしたボランティアさんをきっかけに、世代を超えた交流や地域のつながりが、ゆっくりと、しかし着実に育まれているように感じます。今後もサロンは、こうした地域のあたたかな「ひとりじゃない」と感じられるつながりを大切にしていきます。



ゆうゆう塾&ごちゃまぜサロン合同クリスマス会inニューボンゴ

最近のゆうゆう塾では楽器演奏が流行っています。ギターを演奏する学生は、弾いてほしい曲をリクエストされると、次回までに練習してきてくれて、みんなで演奏を聴いたり、歌ったりしています。勉強を頑張ってクリスマスにギターを買ってもらった高校生は、これからもギターを背負ってゆうゆう塾に来てくれることでしょう。

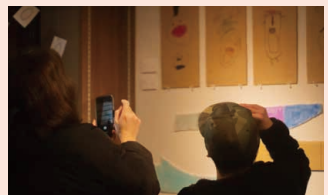
12月には、「歌っていいよね!」「みんなでカラオケ行きたいね!」ということになり、当別町内のお店のご協力



のもと、盛大にクリスマス会を開催しました。誰かのやりたいことは、みんなのやりたいこととして、世代を超えてみんなが楽しく集える会になりました。子どもたち、大学生、ごちゃまぜサロンのメンバーや職員も、笑顔と笑いがあふれています。

わたなベストア活用、アート展示会の開催について

江別事業部では、利用者さんが日々制作されたアート作品やイベントで作った作品の展示会を行い、皆様より大変好評をいただきました。11月には、事業部を超えて、当別拠点の利用者さんの作品も提供いただき、展示会を行いました。普段アートと接点がない職員も、作品を引き立てる展示方法に工夫を凝らして、一丸となり完成に向けて協働できました。そして何よりも、展示会にお越しくださった利用者ご本人とご家族からの温かいお言葉や喜ばれるお姿は大変うれしいものでした。特に、利用者さんご本人が展示会を通して、ご自分が行っていることが他者の目に触れ、評価されるということに誇りを持っているようでした。また、その経験から展示会の後も続々と新作を作ってきてくださり、アート活動に主体的に取り組もうとされている姿も見られて、大変うれしく思います。アート活動は、ただの楽しみだけでなく、物事にご本人が主体として参加し、そこにあることで、新しいことへ挑戦する意欲や物事へ取り組む自己効力感、その人らしい在り方の大切さへとつながっているのではないかと支援者としても、ともに学びの多い経験となりました。



視野を広げ、学びを活かす“実践型キャリア研修”

このたび社会福祉法人ゆうゆうでは、職員のキャリア形成支援と組織力の向上を目的に、新たに「実践型キャリア研修」を導入いたしました。今年度は試行的な取り組みとして実施し、他部署で多様な業務を経験することで、視野の拡大や柔軟な発想の育成、組織横断的な関係づくりを促進します。また、他部署で得た学びや気づきが自分の職場での業務改善や新たな発想につながることも期待されています。職員一人ひとりの将来のキャリア開発を支える制度として、今後もより良い人材育成に取り組んでまいります。

